

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190101006		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌山鼻グループホーム (太陽ユニット)		
所在地	札幌市中央区南14条西18丁目5-1		
自己評価作成日	令和3年11月30日	評価結果市町村受理日	令和4年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0170100937-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年12月1日に事業所が移転し、通所介護の他にサービス付き高齢者住宅、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所も併設した複合の事業所となりました。移転後は協力病院が隣となり、医療支援の迅速な対応ができております。事業所の設備に関してはフロアに限らず全居室にエアコンが完備され、夏は涼しく・冬は暖かく快適に過ごせる環境を整備しました。また当初より「看取り」までの支援を考え、重度になっても、入浴ができるようリフト浴が設置し、各居室にも電動ベッドを設備しました。サービスとしてはコロナ禍で外出ができない状況となりましたが、室内でも楽しんでいただけるよう、誕生会などのイベントで美味しい出前を頼んだりして楽しんでおります。最近、コロナ感染者が少なくなってきておりますので天気の良い日は近隣の公園等に散歩に出かけ外気に触れる機会を取り入れております。ご家族との面会については現在、相談室を活用し予約制で実施しております。ご家族と面会をすることでご入居者様は喜んでおられますので感染状況をみながら継続して実施していきたいと思っております。共用型認知症対応型通所介護は現在、コロナ禍で休止しておりますが、地域で困っている認知症の方の支援や将来グループホームの入居を検討されている方が、デイサービスを利用しながら待機して頂き、環境の変化が最小限にできるような環境を整備できるよう、再開後はしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ツクイ札幌山鼻グループホーム」は札幌市の中心部に位置し、市電「西線14条」停留所から徒歩10分以内にある2ユニットの事業所である。建物は5階建ての複合施設で、1階がデイサービス、2階がグループホームで対応型の通所が併設している。上階はサービス付き高齢者向け住宅となっている。令和2年の新型コロナウイルス感染症流行の状況を見極めながら、現在は周辺を散歩し住民と挨拶を交わっている。また小学生からメッセージを添えた折り鶴作品の提供を受けるなど、子供たちとの交流が途切れないようにしている。家族の意向を受け止めて面会の方法を工夫し、11月より予約制で相談室での面会が可能になっている。事業所内では運動や創作活動を取り入れ、行事や誕生日には、弁当、寿司、ラーメンなどの出前を取り寄せて楽しく過ごせるように工夫している。管理者は職員の育成を計画的に行い、本部支援のもとテーマごとに技法を学び研修報告を提出することで内容を深め、良質のサービスに向けて取り組めるように環境を整備している。主治医の指導で看取りケアも丁寧に行っている。感染症の収束状況を見て、町内会行事の参加や子供たちと交流し、季節の花見や施設見学なども再開し、今後は隣接している建物内にある地域交流室で小規模多機能型居宅との合同イベントを検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在コロナ禍で地域の関わりはできませんが、入居者一人ひとりが、健やかに生活を送れるよう介護計画書を作成し支援している。今後、現在休止しているが、地域の方への認知症支援として認知症対応型通所介護事業の再開を考えています。理念は事業所内に掲示している。	理念の中に「ともに」の文言が入っており、地域住民とともにの意味も込めて、地域との関わりを実践している。全体会議や介護計画作成の際に理念にも触れて確認している。職員は理念を意識して利用者が日々楽しく過ごせるように対応している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナの影響で外出やボランティアの方を呼ぶなどできませんでしたが、散歩の際に地域の方に挨拶をしたりして少しでも交流が取れるように努めている。また伏見小学校の方にはビデオで施設の様子をお伝えしたり、メッセージや折り鶴をもらったりと交流が図れている。	感染症流行前は、町内会行事に参加し、小学生や保育園児との触れ合いは利用者の楽しみになっていた。現状では直接的な交流は難しいが、小学校との連携で交流を継続し、また散歩の際に園庭で遊んでいる保育園児を見て楽しむ機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ流行前は入居者様と町内の催し物に参加したり、認知症サポータ講座など開催していた。現在休止しているが、認知症対応型通所介護事業で地域の認知症の方の支援もしていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で現在、集まってる開催はしていません。文章を活用し、事業所の状況報告をしております。	2か月ごとに文書会議とし、面会方法や主に感染症の対応などを報告書として構成員と全家族に送付している。今後は文書会議時に事前にテーマを決めて書面で意見を収集し、取り組み内容と家族には共有できる資料も送付したいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは運営について確認を行うなどの連携を図ったり、空室状況を報告している。地域包括支援センターへは運営推進会議として事業所の様子を報告しております。	市の担当者には感染症の対応など、分からない時は電話で確認し、事業所の報告はメールや郵送で行っている。市からの情報は職員も把握している。介護保険課の担当者とは制度利用や介護認定更新時の連絡などで関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束委員会を開催し、身体拘束についての話し合いを行っている。また研修も年2回実施し、スピーチロックや普段のケアの中での事例を検討したりと改善できる情報を共有している。	委員会です例や利用者の行動を抑制していないかを確認し、研修につなげている。会議に職員も参加し、また議事録で内容を把握している。研修ではスピーチロックや、本部からのテキストを用いて具体的な禁止行為も確認している。職員は研修報告を提出し、拘束をしないケアを意識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度より身体拘束委員会に合わせ虐待に対しての委員会も開催しております。アンガーマネジメント研修などのセルフケア研修も行っている。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は1名ご利用されている。日常生活自立支援事業を活用されている方は現在いない。キーパーソンの高齢化にともない、必要な方へは制度の説明を行い、いつでも活用して頂けるようにしている。高額でもあるので進まない現状もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を読み合わせて説明を行い、質問には丁寧にお答えし理解、納得をして頂けるよう努めている。後日不明な点が生じた場合は都度ご説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関してはケアプランの配送時や電話などで要望等を伺い、反映させております。直接、言いづらい方の為に共用ホールに意見箱を設置している。また事業所以外にも本社に窓口を設け相談できる機関を設置しています。	家族の意向に沿ってリモートでの面会、看取り時に居室での面会、11月からは予約での来訪など本人と会えるよう配慮している。通信発行は年2回なので、今後は介護計画書、運営推進会議などの送付時に普段の様子も伝えたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より現場に入ることにより、不満点などを職員から聞き取ったり、定期的に職員と面談等を行い、全体会議においても意見交換や伝達などを行っている。管理者だけではなく、本部長・エリア統轄の連絡先を掲示し対応できるよう配慮しています。	全体会議ではカンファレンスや業務について意見を交換し、提案を検討している。また、研修も行き普段の対応を振り返りケアに活かしている。個人面談のほか、必要に応じて個別に話し合い業務などの悩みも聞き、働きやすい環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業契約更新時に個別の面談を行っている。日頃より出勤している職員には、少しでもコミュニケーションをとるように意識し、仕事の様子や表情などに注意している。ストレスマネジメントの面で職員が管理者以外にも相談できる窓口を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議棟で研修の実施をしたり、将来的なことを考え資格取得支援として研修への参加の補助や法人で行う模試などに参加を促しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他事業所などとの交流はできていないが、同施設のデイサービスやサ高住、グループホームなどは交流の機会を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に施設見学をして頂いたり、実際に来る事ができない方へは訪問し、今までの生活歴等を確認し、今後の生活について十分話す機会を設けてます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のみの面談や電話での相談を受け付けている。サービスを利用する不安や今後の生活での要望を伺うようにしている。入居後は細目にご連絡等を行い、ホームでの様子をお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様との面談にて必要としている支援を聞き入れると共に状況、状態を見極め、おむつサービスなど市町村独自のサービスの利用も取り入れられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様一人ひとりの生活歴を大切に得意な事、出来る事を一緒におこなっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一回「ふれあい便り」を送付し、家族が見られないグループホームの生活をお知らせしている。また必要なことはご家族様と相談し、ともに支援できる体制づくりを行っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのかかりつけ病院にご家族の支援を受けながら受診をしたり、なかなか来られない家族様等には電話をしたりして状況をお伝えしております。知人の方などが来訪された際は相談室を活用し、面談の設定をしております。	感染症の影響で来訪は難しいが、友人からの電話を取り次ぎ関係が途切れないように支援している。家族と自宅に行く利用者もいる。絵や写真の趣味、読書が好きな利用者には、家族と協力しながら趣味などが継続できるように対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションなどで、利用者同士が一緒に活動しコミュニケーションをとりやすいよう工夫している。職員は利用者同士の関係が良くなるよう定期的に意見の交換を行っている。また関係が崩れそうな様子が観られそうな際は、席を変えるなどして工夫をしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様の生活状況を記録、保存し、ご家族様の要望に応じて相談、支援に努めている。転居された場合にはこれまでの経緯や生活状況を転居先へ情報を伝達し、必要であればご連絡いただく形をとっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとの日常的な関わりと観察を重視し、日々の関わりを通して一人ひとりの思いを汲み取り、本人の希望に沿ったケアの支援に努めています。カンファレンスで検討し本人の立場にたったケアを支援できるよう努めています。	7割ほどの利用者とは会話の中で意向を聞き、難しい場合は普段の様子から把握している。利用開始時の生活背景調査票に興味の項目もあるが追記も含めて情報が少ないように見受けられる。	生活背景調査票の項目を検討し、全利用者の趣味、嗜好、暮らしの習慣などの情報を具体的に記載し、変化なども追記して現在の利用者の意向を記録で共有できるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様からこれまでの暮らしや生活について伺い、入居者様の理解に努めています。入居後も、本人の生活状況の観察と意思の疎通を通して、サービス向上につなげるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日常的な行動や暮らしの中からの趣向の傾向を理解し、サービスの向上に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりに担当者を付け、計画作成担当者を中心に、入居者様の想い願いの掌握と実現に向けてカンファレンスで話し合いをしています。	短期を3か月、長期を6か月ごとに目標を見直している。担当職員がモニタリング評価を行い、それらをもとにカンファレンスで意見を交換し介護計画を作成している。タブレット端末で日々の記録を行い、抽出で変化も分かるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、入居者様の様子や会話の内容を記入し申し送りノートを活用し情報共有ができるように努めている。またその内容をケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の身体状況やご家族様の生活状況の変化を踏まえ、その時のニーズに対応をしています。福祉用具なども事業所の費用負担でレンタルをしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容の利用が出来るよう支援している。ボランティアや地域の方との交流はコロナ禍でできていないが近隣小学校の方とは直接接しない形での交流をしている。また必要な方は訪問マッサージを導入しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を月2回行っている。家族の意向を往診医に伝えたり、希望時には家族にも往診に同席して頂いている。また、他の医療機関への受診ができるよう家族に同行を依頼したり、職員が受診同行しています。	現地に移転前のかかりつけ医を継続し、訪問診療をほぼ全員が受けている。他科受診は家族が対応し、事情に応じて職員が同行することもある。受診記録は往診、通院を利用者ごとに記録し、パソコン上で管理している。	

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同社の訪問看護ステーションより、看護職員が週1回派遣され、入居者の健康管理、職員からの情報や相談・医師との連絡調整を行っている。夜間帯もオンコール体制をとり、必要に応じた相談をうけられる体制をとっています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は利用者様の情報を速やかに提供し、入院期間中も定期的に面会に行き状況の把握に努めています。また退院時はスムーズにグループホームで生活が送れるよう、病院からの添書を職員全員で共有できるよう努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針については入居時に確認を行い対応をしております。終末期にはご家族様には、ご本人様の様子や状態を定期的に報告し、状況に応じて医師を交えた詳しい説明を行い、今後についてご家族と一緒に検討している。職員は看取り研修を実施し知識と理解に努めています。	利用開始時に文章をもとに重度化や看取りについて説明し、同意書と看取り意向の確認証を得ている。往診の医師に指導を受けながら今年4名を看取っている。終末期には関係者で方針確認後に看取りに関わる同意書を交わしている。職員は看取り研修と看取り後の振り返りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、医師、看護師、管理者への連絡を24時間体制で整えている。マニュアルを各ユニットに掲示している。非常災害の訓練はしているが急変時の訓練はしていないので今後実施していきます。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間想定避難訓練を実施している。土砂や水害などの災害は少ない地域であるため、現状1階に浸水する想定訓練は実施しましたが2階までは実施していません。地盤調査や災害マニュアルは研修を通して周知していますが十分に周知できているとはいえません。	感染症の防止から自主訓練を建物全体で行い、各事業所に分けて必要な確認をしている。当事業所では地震からの火災発生も想定し、物の落下がないかを確認している。職員の救急救命訓練の受講は感染症流行もあり行ってない。	地震時の想定で、利用者ごとに各ケア別の対応を話し合い、記録をもとに定期的に見直すことを期待したい。また感染症の収束状況をみて職員の救急救命訓練の受講を計画的に実施できるよう期待したい。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、さり気ない介助や言葉かけを実施しなければいけない。馴れ合いによる言葉の乱れが時折見られる為、研修や振り返りの時間を定期的、継続的に設けています。	毎年、接遇研修を実施している。行動を抑制するような言葉遣いがあればその都度注意を促している。申し送りや職員同士の情報交換は、プライバシーに配慮してインシヤルで行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた説明や自己決定ができるサービスを目指しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方を確認し、起床時間や就寝時間、散歩など一人ひとりの意向を確認し、思い思いの時間が過ごせるよう配慮しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベント時には、家族の意向を聞きおしゃれが出来るように、髭剃りや整髪、衣服の汚れ等、注意しております。定期的に理美容を利用し、身だしなみを整えています			

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を取り入れた食事を提供している。外食はできないため施設内で行事食(誕生日や正月、花見など)の行事を企画し、特別な食事も定期的に行っています。見た目の器なども入居者様が食べやすいものを選ぶなどして一人一人に合わせた提供をしています。	本部の献立に沿って、建物内の調理室で作った料理を職員が盛り付けて提供している。利用者と一緒にたこ焼きパーティーをしたり、誕生日や年間行事に合わせて弁当や寿司、ラーメンなどの出前を取ることもある。利用者は食器洗いや食器拭きなどの手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に従い、食事の提供を実施しております。食事量・水分量を日々記録し、不足がないよう注意し、必要に応じ介助や声かけでスムーズに摂取できる様配慮している。個々の嗜好や、嚥下状態などにも配慮しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけを行い習慣化できるよう支援している。介助が必要な方には歯ブラシ以外にも口腔スポンジを使用し、口腔ケアの介助を行っている。また、週に1回訪問歯科による口腔内の治療、チェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ADLに応じた介助を行っている。トイレでの排泄を基本とし、状態や能力に応じた最良の方法をカンファレンス時に検討している。体調などに依りベッド上での対応も行っています。	全員の排泄を記録して適切な声かけや誘導を行うことで、殆どの利用者が昼夜ともにトイレでの排泄が可能となっている。時間帯でパッドの大きさを変えたり、本人ができることは行ってもらい自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分量などを観察し、職員間で情報の共有をしている。乳製品等を必要時に提供し、便秘予防に努めている。状況に応じて主治医に相談し、下剤などを使用し調整を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理なく全入居者様が週2回の入浴を楽しんでいる。拒否が強い方は原因を確認しケアの統一を図ったり、体調不良や気分が乗らないときには翌日に振り返るなど、配慮している。又、重度の方でも浴槽に入れるよう機械浴を完備しています。	日曜日を予備日とし、時間帯や湯加減、同性介助などの意向に沿って入浴を支援している。感染症の流行状況に応じて、浴槽の湯を毎回交換することもある。入浴を拒む場合は、気分転換できるように声かけを工夫して入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活歴や習慣に合わせ、昼間の活動の支援をし、精神面での安定を図るなどし、夜間安心して良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には入居者様が使用する薬の目的や副作用等を周知し、入居者様一人一人が医師の指示通り服薬できるよう支援をしている。薬局と個人で契約し居宅療養管理指導を受けて対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが可能な範囲内で役割を持ち、レクリエーションや体操など、生活にはりができるように努めております。ご家族から頂いた情報をもとに興味や嗜好品の確認も行っております。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(太陽ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出などは近隣の公園の散歩や事業所周りの散歩に限られている。終息に向かっていけば行事等の企画を検討していきます。	普段は、車いすの利用者も一緒に近くの公園に出かけたり、周辺を散歩して保育園児の遊ぶ姿を見て挨拶を交わすこともある。玄関で外気浴をしたり、年間を通して受診で出かける利用者もいる。感染症収束後は、以前のように季節に応じた外出を予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金のお預かりはせず、ご本人のご要望に応じて立替金にて購入をさせて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて、事務所内にある電話を使用して頂いております。希望があれば手紙や年賀状が出せる支援もしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて装飾をしております。各居室にエアコンが完備しており、冬は暖かく、夏は涼しく快適な温度管理を行っております。日当たりよく明るい事業所です。	大きな窓に面した居間と食堂は明るく開放感のある造りになっている。ユニットごとに食卓テーブルやソファの配置を工夫して利用者が落ち着いて過ごせるように配慮している。居間や壁には、季節感のあるクリスマスツリーやクリスマス装飾が施されており、家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	太陽については共用スペースが広く、ソファを2つ設置し、自由にくつろげるようにしております。概ね座席を決め、慣れた場所で過ごせる様な環境づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族と相談しそれまで使っていた物や好みの物を配置しております。	居室にはベッドとクローゼット、冷暖房設備が備え付けられている。仏壇や使い慣れたダンス、趣味のギターやカメラなどを持ち込んで落ち着いて過ごせるように工夫している。自分の作品や家族の写真も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場など分かるように表札をつけております。生活の導線に注意し、備品を設置しております。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190101006		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌山鼻グループホーム (ひまわりユニット)		
所在地	札幌市中央区南14条西18丁目5-1		
自己評価作成日	令和3年11月30日	評価結果市町村受理日	令和4年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0170100937-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年12月1日に事業所が移転し、通所介護の他にサービス付き高齢者住宅、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所も併設した複合の事業所となりました。移転後は協力病院が隣となり、医療支援の迅速な対応ができております。事業所の設備に関してはフロアーに限らず全居室にエアコンが完備され、夏は涼しく・冬は暖かく快適に過ごせる環境を整備しました。また当初より「看取り」までの支援を考え、重度になっても、入浴ができるようリフト浴が設置し、各居室にも電動ベッドを設備しました。サービスとしてはコロナ禍で外出ができない状況となりましたが、室内でも楽しんでいただけるよう、誕生会などのイベントで美味しい出前を頼んだりして楽しんでおります。最近、コロナ感染者が少なくなっておりますので天気の良い日は近隣の公園等に散歩に出かけ外気に触れる機会を取り入れております。ご家族との面会については現在、相談室を活用し予約制で実施しております。ご家族と面会をすることでご入居者様は喜んでおられますので感染状況をみながら継続して実施していききたいと思います。共用型認知症対応型通所介護は現在、コロナ禍で休止しておりますが、地域で困っている認知症の方の支援や将来グループホームの入居を検討されている方が、デイサービスを利用しながら待機して頂き、環境の変化が最小限にできるような環境を整備できるよう、再開後はしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在コロナ禍で地域の関わりはできませんが、入居者一人ひとりが、健やかに生活を送れるよう介護計画書を作成し支援している。今後、現在休止しているが、地域の方への認知症支援として認知症対応型通所介護事業の再開を考えています。理念は事業所内に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナの影響で外出やボランティアの方を呼ぶなどできませんでしたが、散歩の際に地域の方に挨拶をしたりして少しでも交流が取れるように努めている。また伏見小学校の方にはビデオで施設の様子をお伝えしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ流行前は入居者様と町内の催し物に参加したり、認知症サポータ講座など開催していた。現在休止しているが、認知症対応型通所介護事業で地域の認知症の方の支援もしていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で現在、集まってる開催はしていません。文章を活用し、事業所の状況報告をしております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは運営について確認を行うなどの連携を図ったり、空室状況を報告している。地域包括支援センターへは運営推進会議として事業所の様子を報告しております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束委員会を開催し、身体拘束についての話し合いを行っている。また研修も年2回実施し、スピーチロックや普段のケアの中での事例を検討したりと改善できる情報を共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度より身体拘束委員会に合わせ虐待に対しての委員会も開催しております。アンガーマネジメント研修などのセルフケア研修も行っている。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は1名ご利用されている。日常生活自立支援事業を活用されている方は現在いない。キーパーソンの高齢化にともない、必要な方へは制度の説明を行い、いつでも活用して頂けるようにしている。高額でもあるので進まない現状もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を読み合わせて説明を行い、質問には丁寧にお答えし理解、納得をして頂けるよう努めている。後日不明な点が生じた場合は都度ご説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関してはケアプランの配送時や電話などで要望等を伺い、反映させております。直接、言いづらい方の為に共用ホールに意見箱を設置している。また事業所以外にも本社に窓口を設け相談できる機関を設置しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より現場に入ることにより、不満点などを職員から聞き取ったり、定期的に職員と面談等を行い、全体会議においても意見交換や伝達などを行っている。管理者だけではなく、本部長・エリア統轄の連絡先を掲示し対応できるよう配慮しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業契約更新時に個別の面談を行っている。日頃より出勤している職員には、少しでもコミュニケーションをとるように意識し、仕事の様子や表情などに注意している。ストレスマネジメントの面で職員が管理者以外にも相談できる窓口を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議棟で研修の実施をしたり、将来的なことを考え資格取得支援として研修への参加の補助や法人で行う模試などに参加を促しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他事業所などとの交流はできていないが、同施設のデイサービスやサ高住、グループホームなどは交流の機会を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に施設見学をして頂いたり、実際に来る事ができない方へは訪問し、今までの生活歴等を確認し、今後の生活について十分話す機会を設けてます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のみの面談や電話での相談を受け付けている。サービスを利用する不安や今後の生活での要望を伺うようにしている。入居後は細目にご連絡等を行い、ホームでの様子をお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様との面談にて必要としている支援を聞き入れると共に状況、状態を見極め、おむつサービスなど市町村独自のサービスの利用も取り入れられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様一人ひとりの生活歴を大切に得意な事、出来る事を一緒におこなっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一回「ふれあい便り」を送付し、家族が見られないグループホームの生活をお知らせしている。また必要なことはご家族様と相談し、ともに支援できる体制づくりを行っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのかかりつけ病院にご家族の支援を受けながら受診をしたり、なかなか来られない家族様等には電話をしたりして状況をお伝えしております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションなどで、利用者同士が一緒に活動しコミュニケーションをとりやすいよう工夫している。職員は利用者同士の関係が良くなるよう定期的に意見の交換を行っている。また関係が崩れそうな様子が観られそうな際は、席を変えるなどして工夫をしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の要望に応じて相談、支援に努めている。転居された場合にも転居先へ情報を伝達し、必要であればご連絡いただく形をとっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して一人ひとりの思いを汲み取るようにしている。カンファレンスで検討し本人の立場にたったケアを支援できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様からこれまでの暮らしや生活について入居後も、積極的にコミュニケーションをとり、サービス向上につなげるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの出来る事、好きな事を把握し、個別の支援を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりに担当者を付け、計画作成担当者を中心に、入居者様の想いを大切に出来るようアセスメントを行い、カンファレンスで話し合いをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、入居者様の様子や会話の内容を記入し申し送りノートを活用し情報共有ができるように努めている。またその内容をケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の身体状況やご家族様の生活状況の変化を踏まえ対応しています。福祉用具なども事業所の費用負担でレンタルをしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容の利用が出来るよう支援している。ボランティアや地域の方との交流はコロナ禍でできていないが近隣小学校の方とは直接接しない形での交流をしている。また必要な方は訪問マッサージを導入しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を月2回行っている。家族の意向を往診医に伝えたり、希望時には家族にも往診に同席して頂いている。また、他の医療機関への受診ができるよう家族に同行を依頼したり、職員が受診同行しています。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同社の訪問看護ステーションより、看護職員が週1回派遣され、入居者の健康管理、職員からの情報や相談・医師との連絡調整を行っている。夜間帯もオンコール体制をとり、必要に応じた相談をうけられる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は利用者様の情報を速やかに提供し、入院期間中も定期的に面会に行き状況の把握に努めています。また退院時はスムーズにグループホームで生活が送れるよう、病院からの添書を職員全員で共有できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針については入居時に確認を行い対応をしております。終末期にはご家族様には、ご本人様の様子や状態を定期的に報告し、状況に応じて医師を交えた詳しい説明を行い、今後についてご家族と一緒に検討している。職員は看取り研修を実施し知識と理解に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、医師、看護師、管理者への連絡を24時間体制で整えている。マニュアルを各ユニットに掲示している。非常災害の訓練はしているが急変時の訓練はしていないので今後実施していきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間想定避難訓練を実施している。土砂や水害などの災害は少ない地域であるため、現状1階に浸水する想定訓練は実施しましたが2階までは実施していません。地盤調査や災害マニュアルは研修を通して周知していますが十分に周知できているとはいえません。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、さり気ない介助や言葉かけを実施しなければいけない。馴れ合いによる言葉の乱れが時折見られる為、研修や振り返りの時間を定期的、継続的に設けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた説明や自己決定ができるサービスを目指しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方を確認し、起床時間や就寝時間、散歩など一人ひとりの意向を確認し、思い思いの時間が過ごせるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベント時には、家族の意向を聞きおしゃれが出来るように、髭剃りや整髪、衣服の汚れ等、注意しております。定期的に理美容を利用し、身だしなみを整えています		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を取り入れた食事を提供している。外食はできないため施設内で行事食(誕生会や正月、花見など)の行事を企画し、特別な食事も定期的に楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に従い、食事の提供を実施しております。食事量・水分量を日々記録し、不足がないよう注意している。個々の嗜好や、嚥下状態などにも配慮しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけを行い習慣化できるよう支援している。介助が必要な方には歯ブラシ以外にも口腔スポンジを使用し、口腔ケアの介助を行っている。また、週に1回訪問歯科による口腔内の治療、チェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ADLに応じた介助を行っている。トイレでの排泄を基本とし、状態や能力に応じた最良の方法をカンファレンス時に検討している。体調などに応じベッド上での対応も行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分量などを観察している。乳製品を必要時に提供し、便秘予防に努めている。状況に応じて主治医に相談し、下剤などを使用し調整を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理なく全入居者様が週2回の入浴を楽しんでいる。拒否が強い方は原因を確認しケアの統一を図ったり、体調不良や気分が乗らないときには翌日に振り返るなど、配慮している。又、重度の方でも浴槽に入れるよう機械浴を完備しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活歴や習慣に合わせて、昼間の活動の支援をし、精神面での安定を図るなどし、夜間安心して良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には入居者様が使用する薬の目的や副作用等を周知し、入居者様一人一人が医師の指示通り服薬できるよう支援をしている。薬局と個人で契約し居宅療養管理指導を受けて対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが可能な範囲内で役割を持ち、レクリエーションや体操など、生活にはりができるように努めております。ご家族から頂いた情報をもとに興味や嗜好品の確認も行っております。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出などは近隣の公園の散歩や事業所周りの散歩に限られている。終息に向かっていけば行事等の企画を検討していきます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金のお預かりはせず、ご本人のご要望に応じて立替金にて購入をさせて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて、事務所内にある電話を使用して頂いております。希望があれば手紙や年賀状が送れる支援もしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて装飾をしております。各居室にエアコンが完備しており、冬は暖かく、夏は涼しく快適な温度管理を行っております。日当たりよく明るい事業所です。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	太陽については共用スペースが広く、ソファを2つ設置し、自由にくつろげるようにしております。概ね座席を決め、慣れた場所で過ごせる様な環境づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族と相談しそれまで使っていた物や好みの物を配置しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場など分かるように表札をつけております。生活の導線に注意し、備品を設置しております		

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌山鼻グループホーム

作成日：令和 3年 12月 30日

市町村受理日：令和 4年 1月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	入居当初に生活背景調査票の項目を記載して頂いているが、その用紙の更新がない。	生活背景調査票の項目を検討したうえで、全入居者様の趣味、思考など情報を具体的に記入する。また現在の変化なども追記して共有を図っていく。	①調査票の項目の内容を検討する。 ②過去と現在が同じ用紙に記入できるよう工夫をしていく。 ③1年に1回は見直しして更新をしていく。	1年
2	35	地震想定訓練を行っているが、個別にどのような形での避難をするか検討するとよい。	日常のケア以外にも地震想定でどのような訓練をしていくか検討をしていく。	①ユニット毎に地震想定時の訓練を想定した話し合いをする。 ②居室内に落下物など危険箇所がないか確認する。 ③避難方法を一覧にまとめる。 ④身体状況等変化があれば更新していく。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。